資料⑥－２　合同研修会記録２

〈合同研修会パターン２実践記録〉
◎小学校の事例をあげ、接続期の子どもの実態の共通なとらえを深め、指導のつながりについて考えるパターンとして実践した。
　参加者：小学校１・２年生担任５名、幼稚園年中・年長児担任等４名
　進行役：幼児教育センター長期研修員

①資料を配り、合同研修会の目的を説明する。簡単に自己紹介をしてもらう。（５分）

司会「資料１、幼小連携は重要だが、実現していない。資料２、情報交換や交流活動は行われているが、合同研修会はあまり行われていない。『人の話をしっかり聞く』が、幼小の教員の聞き取り調査で一番の課題にあがったので、今日は『人の話をしっかり聞く』をテーマに話し合いたい。資料３、『話をしっかり聞く』の実現度は、幼小の教員で見方がちがっている。」

②話を聞く場面の幼児と児童の写真を１枚ずつ見せて、子どもたちが話を聞いていると思うか、○、×、△のいずれかの札を上げてもらう。（20分）

司会「１の写真は全員○でしたが、どんな所を見てそう思いましたか。」
数名「視線が集中している。」
司会「２の写真は○、△、×と意見が分かれたんですけど、どんな所を見てそう思いましたか。」
小Ａ「先生の方を見ているように思う。耳が動いている感じがする。」
幼Ａ「壁をいじっているが、視線は前を向いていなくても聞いているんじゃないかな。」
小Ｂ「小学校では、別の方を向いている子は別のことを考えている、聞いていないと思ってしまう。」
小Ｃ「手悪さをしていると、聞いていないと思ってしまう。」
小Ｄ「おしゃべりをしている子もいるが、聞いている子もいる。」
幼Ｂ「幼稚園では、話を聞いているんだろう、話に入りたいんだけど様子を見ているんだろうと、とらえる。」
幼Ｃ「全体の様子では聞いているようだが、１の写真から比べると聞いていないようだから△。立ち上がっている子どもがいるが、その子は聞いている。」
数名「場面だけでは、聞いているかどうか分からない。」
小Ｂ「小学校は学習という視点から聞いていないと判断する。幼稚園とは目標が違う。話をする人の目を見る、背筋を伸ばすという態度、きまりが守れると力がつく。」
幼Ｃ「幼稚園では集団を見るのではなく、個の関わりでまずは１対１で聞く、個で聞いているかどうかをみる。そして、人の話を聞くという場面では、先生が話をよく聞いてやる。目を向けて、椅子を向けて、人と人との関わりの中で話を聞く。そこから集団で話を聞くことへとつなげていきたい。集団の場合も大事にしなければならない。」
小Ｂ「目線がどこを見ているかどうかによって、聞いているかどうか判断できる。」
司会「人の話を聞く力を育てるためには、個々の関わりの中でまずは育てたい、一人一人を大事にしているという話が出ました。それでは、次に保育の一場面のビデオをご覧ください。」

③ワークシートを配る。保育ビデオ『ここだからね　せんせい』の一場面を視聴して、学級全体に話をする時の教員の指導について話し合ってもらう。（25分）

司会「子どもたちは先生の話が理解できていたでしょうか。しっかり見て、聞きなさいな

ど私もよく言いましたが、こんな投げかけで子どもたちが聞くようになると思いますか。」

小Ａ「話をする時は、まずは静かにさせないといけない。聞いていない子がいると先生の声が大きくなってしまう。」

小Ｅ「話をやめさせて、しっかり聞く態度、遊ぶのをおさえて集中させないといけない。静かにさせ落ち着かせないと、聞いてくれない。毎日の訓練が大切。聞いていない子がいると見過ごすことができない。」

幼Ｃ「聞いていないようでいて聞いているのかな。話を聞いて欲しいなという雰囲気を作ることが大切。」

小Ｂ「年長だけど、グループを作ることが分かったのかな。先生は作りたいけれど、その意図が子どもたちに伝わっていない、先生が子どもの実態をとらえていないのでは。」

小Ｄ「話を聞いていないんだろうな、指示は伝わっていない。」

司会「どういうことに気をつければ話を聞くのでしょうか。」

幼Ａ「大事な話をする時、約束事など話をする時は手遊び歌などをして、先生に注目させてから話をしている。」

小Ｃ「話を聞く雰囲気を作っていく。小学校では指示が通るように話を聞くんだよという姿勢を作って、落ち着かせてから話をする。」

小Ｂ「全員がこちらを見るまで話を始めない。幼稚園ではどうしているのでしょう。」

幼Ｄ「先生の前に扇形に集めて話をしたり、体育すわりだったり、形にこだわらず座らせたり、声もゆっくりめに話をしたりしている。」

小Ｂ「幼稚園では、あの手この手があるんですね。」

幼Ｂ「話をする前に『これから何か話をしますよ』というものをやる。『１回しか言わないよ』というやり方もある。先生の話を聞かなくちゃあというのが心に響かないと、聞くような気持ちにならないといけない。」

司会「聞かなくちゃという意識をどう育てればいいのでしょうか。」

小Ｂ「複数の教員が関わると違う。先生がそばに行くだけで、その子の肩に手を置くだけで集中するようになったりする。相手が話をしている時に、自分の話を始めてしまい、聞くことができない子がいる。一人でよくしゃべり、話したくてたまらない、聞く習慣が身に付いていない。」

小Ａ「小学校の場合は、授業だから聞くようなしっかりした指示をしなければならない。手抜きをした授業では聞かなくなる。時間を確保して、聞く姿勢、話をしている人を見る、手遊びをしないなどの指導が大切。でも、子どもとの信頼関係が築けないと聞いてはもらえない、特に高学年では。気持ちが育っていかないと、人の話が聞けない。」

司会「小学校では信頼関係が大切だと言っていますが、幼稚園も同じですか。」

幼Ｄ「そんなに違いはない。信頼関係ということは幼稚園でも大切なこと。幼稚園でも授業という形ではないが、興味を引く環境を用意している、教材研究をしている。年長になると、続きのあるお話を読み聞かせしている。先生が大好きだから先生のお話を聞こうとか、子どもたちの話を聞いてあげるとよく聞いてくれる。」

司会「小学校でも、幼稚園でも信頼関係を築くことが話を聞くことにつながる。子どもの話を聞いてあげると話を聞くようになるというようなお話が出ました。また、先程話をしている時にしゃべり出してしまい、話を聞くことができない子がいるという話がありましたが、実際にあった事例の資料がありますのでご覧ください。」

④資料の前半の部分だけ配り、小１の事例『じっとしていられないＴ男』の資料を読んで、Ｔ男の指導について話し合ってもらう。　（20分）

司会「Ｔ男は本当に校長先生の話を聞いていたのでしょうか、皆さんならこのあとＴ男をどのように指導しますか。」

小Ａ「この子なりに聞けたのではないかな。」

幼Ａ「こういう子は目立ってしまうのかなあ、聞いていないのかなと思う。」

幼Ｃ「聞いていない気がする。でも、聞いていないふりをしても聞いている子もいる。この子は、所々聞いていたんではないかな、しっかりは聞いていないかも。」

幼Ｄ「聞いていないようだけど聞いていたかもしれない、その子に話を聞いてみないと分からない。」

小Ｂ「その子その子で、聞いている時も聞いていない時もある。表面的なことでは分からない。『分かったのね』と、理解できた部分を評価してやればいい。」

幼Ｂ「チョロチョロしていないからとか、態度姿勢がしっかりしているからとかでは、本当は聞いているかどうか分からない。指示したことについて動けたかということも大切になる。この子が、『校長先生の話をよく分かったよ』ということは、行動はよくないが、この子のことを認めてあげないといけない。」

司会「今、話にあったように、落ち着きがないと思っていたが本当はよく聞いていた、逆に姿勢がよくて聞いていると思っていたら実際はよく分かっていなかったなど、そんな経験がみなさんにもあるのではないでしょうか。」

幼Ｂ「何々しながらという態度が見られる。あっちの方を向いて遊んでいるからと、内緒の話をしていても、子どもが耳にしていて聞いている場合もある。」

司会「子どもの表面的なことを見ても分からないことは多く、本人が『分かった」と言っていることを評価してやることは大切ですよね。実は担任の先生が、この子がどんなときにじっとしていられないか観察したんです。子どもの行動をよく見ると、話を聞きたいとき、話がよく分からないからもっと分かりたいとき、質問したことの答えが分かったときに、どうもじっとしていられないということが分かったんです。」

○資料５を配る。

司会「この担任の先生も、Ｔ男君をよく見たり、話を聞いたりしてＴ男君との関係ができてきたら、Ｔ男君は落ち着いた態度が見られるようになったそうです。」

⑤接続期のつながりの指導について考え、意見交換をしてもらう。　（10分）

幼Ｃ「１年生を目前にした子どもたちに、話を聴く態度を教師が頭に置きながら指導にあたりたい。とまどいが少なくなるように配慮できるところはしてあげたい。」

小Ｅ「聴こうとする気持ちを大切に支援していきたい。」

幼Ａ「幼児期には自分の思いを相手に伝える、聞いてもらう喜びや楽しさを十分に味わうことで、人の話を聞く態度が育ってくると思うので、教師や友達との信頼関係を大切にしながら、話す楽しさから聞く楽しさ、大切さを知らせていきたい。」

小Ｂ「子どもの発達に寄り添って子どもを理解していくことと、話を聞けるように育てていくことの両方を追求する必要があると思います。」

幼Ｂ「今日は小学校の先生方の意見を聞くことができ、ありがたかったです。」

小Ｂ「今度、幼稚園の授業を見に行きたいですね。」

幼Ｂ「いつでも歓迎します。」

司会「本日は、お忙しい中をありがとうございました。」